

# 改めて考える「議員って何だ？」



日本共産党船橋市議会議員

さとう

# 佐藤重雄

しげお

**■生活相談担当地域**  
若松、浜町、宮本2～5・7～9丁目、東船橋5～7丁目、本町、北本町、海神、海神町、南海神、西船グリーンハイツ(西船2丁目)、山手、西浦、栄町、日の出、湊町、南本町

**■連絡先**  
【議員控室】電話 436-3030  
(月)～(金) 午前10時～午後5時

最近のマスコミ報道のなかで、「議員の数が多すぎる」「意見がある」とか、「報酬が高すぎる」という意見もある、などという記事を目にすることがあります。そこで、みなさんにも考えてみていただきたいのが「議員って何だ?」ということですね。

マスコミには議員や議会に「どんな役割を期待するか」「その期待に込めているのか?」という点で検討されている記事はあまり見られません。

「議会の歴史」が長い国などでは、  
○他に正業をもっている人が議員となつて働く

○だから議員としての報酬は安くし  
○一人の議員が収集できる情報量は多くないから議員の数は多くする

○議会を開くのも一般的な就業時間をさけて、夕方から夜間をそれに休日に関くということを基本にしているところもあります。

検討する価値があります。  
日本の都市部では、一定の報酬を受け取る「専業の議員」を、人口1万人前後に1人程度の「定数」を定めて、日常的

に住民の生活情報を得て議会に反映させる、というのが一般的で、これも一つの考え方だと思えます。

## どんな立場で・・・

議員が選挙で選んでもらうためには「何々の立場に立って働く」ということを鮮明にしなければならぬはずですし、自分が「その立場に立っている」と思つても、別の議員も「同じ立場から」別の

## 「議員を減らす。だから私を議員にしてー!」とは・・・

さらに気をつけて頂かなければならぬのが、マスコミが「議員が多すぎる」という意見がある」など報道すると、「私は議員定数を何人減らします」「だから私を議員にしてください」などという「お調子もの」が出てくることです。

議員定数は、法律でガイドラインが決まっています。

それを減らせば、減らすだけ行政は「独裁に近づく」ことになり、おまけに「だめな議員だけが居なくなる」ということなどにもなりません。

目の粗いフィルターでは、市民の声を

結論を導き出すことだってあるはずですから、議論の場＝議会が開かれるわけです。

有権者のみなさんには、この議論の場を見ていただいて「次の選挙の判断基準」にしていただきたいと思えます。

今は、インターネットでも、本会議中継や録音中継もありますので、ぜひ見てください。

参考になると思えます。

正確にすくい上げることができません。

議員には、

○住民の生活情報を得る時間

○分析し研究する時間

○政策として構想する時間

が必要です。

議員が「襟をたたく」というのは、ほかの議員を無能呼ばわりし「定数を減らす」などと叫ぶのではなく、「政策を研究し、それを活かして」「市民のくらしをまもること」だと、私は確信します。

みなさんも、どうぞ考えてみてください。

よく「実績」と言いますが、「他には見られない」実績を見てください  
市民の負担を軽くさせた、佐藤重雄と日本共産党議員団

◎バブル崩壊で、巨額の借金を船橋市だけが負担することになりそうだった船橋駅南口の再開発。「権利変換が終っていても、大口の権利者間の『任意の協議はできる』という見直し案」を提案。結果として21億6,000万円の協力が得られ、それだけ市民負担が少なくなりました。

◎市庁舎が建設されている土地の一部は借地。その「借地料」が異常に高くなっていることを指摘して引下げました。(10年間で3億6千万円)

◎ケア・リハビリセンターの建設と運営にかかわる「癒着」を解明し、1億2,000万円の事業者負担で和解に。

◎船橋駅北口駐車場「貸付料」があまりにも低額であることや管理のあり方を追求。見直しが始まりました。

◎若松団地地先の「埋め立て」やその後の再開発に積極的に発言。今回その土地の一部に「保育園の新設」の計画が進んでいます。

◎地域のことで・・・南船橋駅のエレベーター設置、西船橋駅南口のエレベーター設置に「目途をつけた」など、いろいろありますが……。

### 佐藤重雄 略歴

1940年山形県生まれ。千葉・茨城公団住宅自治会協議会役員、全国公団住宅自治会協議会代表幹事を歴任。若松2丁目団地自治会長。現在7期目。市民環境経済常任委員。